

令和元年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)実績報告書(プログラム実施報告書)
(研究成果公開促進費)「研究成果公开发表(B)
(ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI)」

課題番号：19HT0116

プログラム名：社会を科学する！理想の社会をデザインし、政治家へ提案してみよう！



所属 研究 機関	名称	岐阜大学
	機関の長 職・氏名	学長 森脇 久隆
実施 代表者	部局	教育学部
	職	准教授
	氏名	田中 伸

開催日	令和元年 11 月 30 日
実施場所	岐阜大学 全学共通教育講義棟
受講対象者	中学生
参加者数	中学生19名
交付申請書に記 載した募集人数	中学生20名

プログラムの目的

本プログラムは、第1に政治や政策、社会問題を科学的に分析する方法論の獲得、第2に主権者として社会を創造する視点・観点の獲得を目的として実施した。受講生にわかりやすく研究成果を伝え、活発な議論ができるように、プログラムは講義、演習を交互に複数回実施する構成を取り、実施した。

プログラムの実施の概要

各構成の要点は以下である。

○講義

以下3回の講義を行なった。第1回では「社会を科学的に見る方法」。社会を論理的・批判的に分析する方法論を示した。第2回では「社会問題の評価方法」。社会問題を地理的・歴史的視点から分析・評価する方法論を示した。第3回では「社会と自分はつながっている?」。社会を自身と離れた存在ではなく、自らが巻き込まれている枠組みと捉える方法論を示した。

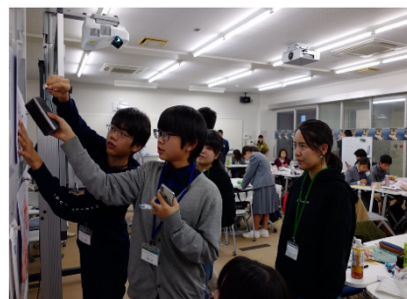
○演習

本年度は、サードプレイスをテーマとして実施した。大きな枠組みとしては、以下2種類のアクティブラーニングを行なった。第1は「現代は孤独な社会?」として、現代社会の問題の一つとして「居場所」の議論があることを提示し、全国に見られる行政がデザインしたサードプレイスを紹介し、その戦略を分析した。第2は「新たなサードプレイスを考えよう」として、チームごとに岐阜県内に新しいサードプレイスを立案した。立案したアイデアは、学校教員及び、議員への複数回の発表、及び質疑応答を行い、何度も各班へ差し戻す形で、精緻化させていった。最終的には各班がデザインしたサードプレイス

を、政策発表会として議員へ提案し、参加者・参観者全員で投票を行い、一つの政策を選出した。

【実施の様子】

当日の様子は以下の写真である。



【当日のスケジュール】

当日は、「社会と科学の関係を知る」「政策分析・立案」「政策発表会」の3部構成で実施した。講義を含め、各部ともに説明を中心にはせず、議論や対話をベースとして実施した。各部の詳細は以下である。

-10:00 受付（岐阜大学**全学共通教育講義棟** 1階）

10:00-10:15 開講式（あいさつ、オリエンテーション、科研費の説明）

（1）第1部：社会と科学の関係を知る

10:15-10:40 講義①「社会を科学的に見る方法」

10:40-11:05 講義②「社会問題の評価方法」 その後休憩

11:15-11:30 演習①「現代は孤独な社会？」

（2）第2部：政策分析・立案

11:30-12:00 演習②「新たなサードプレイスを考えよう」

12:00-13:00 昼食・休憩（岐阜大学）

13:00-13:30 演習③「政策案をまとめよう」

13:30-14:00 講義③「社会と自分はつながっている？」 その後休憩

（3）第3部：政策発表会

14:00-15:25 政策プレ発表会→各班3分で発表、議員からの質疑応答10分（各自3分ずつ）

15:25-15:35 クッキータイム

15:35-15:55 演習④「政策を補強しよう」

15:55-16:25 政策発表会（指摘を踏まえて発表しよう）（各班3分）

16:25-16:30 投票

16:30-16:45 政策立案への講評 → 1 人 3 分:議員、教員

16:45-16:55 未来博士号授与

16:55-17:00 修了式、アンケート記入

【事務局との協力体制】

- ・教育学部管理係が委託費の管理と支出報告書の確認を行った。
- ・日本学術振興会への連絡調整と、提出書類の確認・修正等を研究推進課研究推進係が主体的に行い、教育学部総務係がサポートした。
- ・参加申込の受付、連絡と保険の手続きを教育学部総務係が行い、研究推進課研究推進係・教育学部総務係が実施代表者と連携し広報活動、受講生募集を行った。

【広報活動】

- ・教育学部総務係が、岐阜県教育委員会をはじめ近隣の小学校や中学校、新聞マスコミ等に対して、代表者・分担者とともに本事業の P R に努めた。
- ・研究推進課研究推進係は大学 H P に、代表者は代表者が開設している研究室の H P に本事業の開催案内・参加者募集案内ページを作成掲載した。
- ・実施分担者の所属先である各中学校の生徒への広報を行なった。
- ・岐阜市立図書館（みんなの森 ぎふメディアコスモス）に規定期間内、本事業の開催案内・参加者募集案内のポスターを掲示した。

【安全配慮】

- ・講師、T A（学生・院生）等による机間指導を行うと共に事前研修で指導の際の注意事項を確認した。
- ・受講者は全員、傷害保険に加入した。

【今後の発展性・課題】

今後の発展性及び課題は以下 3 点である。第 1 は、実施時間である。複数回の政策分析、及び議員との議論・対話により、時間が大きく不足する場面が見られた。これは、主に子どもと議員が真剣に議論を行った故の結果であるが、今回のプログラムで求めた政策分析の深度をより精緻に設計し、プログラム（主に第 2 部と第 3 部）の手続きを再度デザインしてゆく必要があろう。

第 2 は、受講生への確認連絡である。今回、当初予定していた 20 名は募集した直後すぐに満席となった。しかし、中学生や保護者、チラシを配布した先の学校教員から複数の受講希望連絡を頂いたため、急遽募集人数を増やした結果、26 名の応募があった。しかしながら、無断欠席を含めて当日は 7 名の欠席があり、最終的な受講生は 19 名であった。無断欠席等は当日の企画にも大きな影響を及ぼしてしまったため、受講生への事前確認の連絡等を徹底したい。また場合によっては募集段階でキャンセルが出来ないことを明記するなど対策を講じる必要があろう。

第 3 は、今後の研究方略として、通常の社会科カリキュラム内への応用である。今回、本企画へ岐阜県・愛知県の教員を中心に、多くの参観者がみられた。これは、政策立案や分析の方法論を模索する学校教員が一定程度いることが背景にあると思われる。本プログラムは学級の社会科教育実践を社会と繋げてゆくものである。今後は、実施分担者・実施協力者が所属する学校を中心として、通常の社会科カリキュラムへ応用することで、本実践をモデル的に捉え、通常の学級で実施してゆくことが望まれる。